

TOPICS

絵具材料に関する研究

—変わらないように代えていく—

九谷焼技術センター

木村裕之(きむら ひろゆき)

hkimura@irii.jp

専門：陶磁器

一言：現代の生活に合った工芸品の開発を支援します。



九谷焼は陶磁器用絵具(上絵具)による装飾が特徴のやきものです。上絵具は、ガラス粉末(フリット)に着色剤(金属酸化物や無機顔料など)を混ぜて作られます。九谷五彩と呼ばれる基本色の五色以外にも、中間色として多様な色の上絵具が使われています。しかし、近年は原材料メーカーの廃業や製造品種の削減などから、絵具に使用する着色剤で入手困難な製品が増えており、代替の材料が求められています。

代替材料の選定には、まず、化学組成を分析し、目的材料と同じか、近い化学組成の材料を見つけます。次に、実際に上絵具を試作り、絵付け・焼成をおこなって発色や溶

融状態を確認します。最終的に、発色見本を作製し、性状の一番近いものを選定します。いくつかの上絵具では既に切り替えをしています。下図は、もう入手困難になった染付呉須(図左下)と、その代替材料を選定するために作製した着色剤による発色見本です。

工業試験場では、上絵具だけでなく陶磁器に関する問い合わせを受け付けていますので、お気軽にご相談ください。



□ 染付呉須の元の発色見本と作製した代替色見本